

授業概要			
学 科	本科	学 年	1 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	高木 裕貴		
授業形態	講義 (動画+対面)	教 室	ホームルーム
授業目的	医療を含むあらゆる社会活動は、近代社会という特定の文脈のもとで成立している。とりわけ医療という分野は、医療技術の発展にともなう社会問題の医療化や、グローバル化の進展にともなう社会構造の変動など、社会現象と不可分に結びついており、近代社会に対する理解が、よりよい医療の実現にとって重要な条件となる。そこで本授業では、社会学の考え方を簡単に概観した後、社会学の各トピックを横断的に扱うことで、社会学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を捉えて理解するための導きとし、職業人としての自らの判断に役立てられるようになることを目指す。		
教科書	なし		

具体的な到達目標	
目標 1	社会学で用いられる諸概念の内容を説明することができる。
目標 2	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象を分析して説明することができる。
目標 3	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象に対して自ら判断をくだし、その根拠を説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70		
平常点	30	算出方法	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験

有

無

教員の实務経験

実務経験

をいかした

教育内容

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		イントロダクション：社会学とは何か	
2		社会的行為とは何か	
3		社会学の役割は何か	
4		社会秩序はいかにして可能か	
5		家族の社会学	
6		教育学の社会学	
7		職業・労働の社会学	
8		ジェンダーの社会学	
9		民族・エスニシティの社会学	
10		メディアの社会学	
11		都市の社会学	
12		グローバリゼーションの社会学	
13		宗教の社会学	
14		医療の社会学	
15		まとめ：社会学から何を学ぶか	

その他の事項

授業では、レジュメを配布します。試験では持ち込みありで論述問題を出題予定です（授業で登場する人物名や著作名を暗記する必要はありません）。

基礎分野

(生物学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2023 年度シラバス

授業概要

学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	益田 敦子				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	<p>生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の構造と働き、増殖の方法を学ぶ。さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。</p>				
教科書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標

目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	細胞の増殖の仕方（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。

評価と試験

	前 期	後 期
試験成績	85%	
平常点	15%	算出方法
出席点	算出方法	算出方法
その他	算出方法	算出方法
試験日		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験		
実務経験をいかした教育内容		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、生物の特徴、トピック（感染症の再来）	
2		生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き、タンパク質の構造	
3		タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と生体内における働き	
4		糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質、糖質の生体内における働き、	
5		脂質（単純脂質、複合脂質）の構造と性質、脂質（誘導脂質）の構造と性質、	
6		脂質（誘導脂質）の構造と性質、脂質の生体内における働き、無機質の生体内における働き	
7		細胞の発見と細胞説、細胞の大きさや形	
8		細胞膜の構造と性質、細胞膜における物質輸送の方法	
9		核、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置、リソソームの構造と働き、細胞内における物質の流れ	
10		ミトコンドリア、中心体の構造と働き	
11		液胞、葉緑体、細胞壁、細胞骨格の構造と働き、生物のタイプ：原核生物と真核生物、細菌の構造、ラン藻の構造、	
12		細胞の進化、ウイルスの構造、特徴、分類とさまざまなウイルスについて	
13		細胞周期、体細胞分裂、染色体、減数分裂、生殖細胞の形成	
14		復習	
15		試験解説、トピック	

その他の事項

- ・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。
- ・パワーポイントを印刷したものを、配信後ほど配布するので、学習、復習に利用して下さい。
- ・対面授業では、復習や質問に対する対応も行なう。

推薦図書 絵でわかる細胞の世界 黒谷明美著 講談社サイエンティフィック 2001年発行
 医学を学ぶための生物学 谷口直之、米田悦啓編集 南江堂 2004年改訂第2版発行

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	臼井 明宏		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	医学の基礎となる解剖学のうち、「骨、関節、筋といった運動器」を学び、実技授業や臨床でも活用できるよう、その知識を修得する。		
教科書	東洋療法学校協会編 解剖生理 医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	骨について説明することができる（特徴、構造など）
目標 2	関節について説明することができる（特徴、構造、働きなど）
目標 3	筋について説明することができる（特徴、構造、起始停止、作用、支配神経など）
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%	80%	
平常点	20% 算出方法 課題等	20% 算出方法 課題等	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明、第 1 章 C. 組織と器官(支持組織、筋組織)、第 2 章 A. 運動器系とは(1. 運動の仕組み、2. 解剖学的用語)	第 1~2 章
2		A. 運動器系とは(3. 骨の構造と機能、4. 関節の構造と機能)	第 2 章
3		A. 運動器系とは(5. 骨格筋の構造と機能((3)筋線維と筋原線維は除く)	
4		A. 運動器系とは(7. 骨格筋の分類と補助装置(1)赤筋と白筋は除く) B. 全身の骨格(関節可動域)	
5		A. 運動器系とは まとめ、問題演習など	
6		B. 全身の骨格(脊柱、胸郭)	
7		B. 全身の骨格(上肢の骨格)	
8		B. 全身の骨格(下肢の骨格)	

9	B. 全身の骨格(頭蓋骨)
10	B. 全身の骨格(脊柱～上肢のまとめ、問題演習など)
11	B. 全身の骨格(下肢～頭蓋骨のまとめ、問題演習など)
12	C. 全身の骨格筋(体幹部の筋) ①
13	C. 全身の骨格筋(体幹部の筋) ②
14	C. 全身の骨格筋(体幹部の筋)のまとめ、問題演習など
15	試験フィードバック、前期のまとめ
16	C. 全身の骨格筋(上肢の筋) ①
17	C. 全身の骨格筋(上肢の筋) ②
18	C. 全身の骨格筋(下肢の筋) ①
19	C. 全身の骨格筋(下肢の筋) ②
20	C. 全身の骨格筋(頭頸部の筋)
21	C. 全身の骨格筋(上肢～下肢)のまとめ、問題演習など
22	C. 全身の骨格筋(下肢～頭頸部の筋)のまとめ、問題演習など
23	C. 全身の骨格筋のまとめ
24	B. 体表解剖と主要な部位(体幹の体表解剖)
25	B. 体表解剖と主要な部位(上肢の局所解剖)
26	B. 体表解剖と主要な部位(下肢の局所解剖) ①
27	B. 体表解剖と主要な部位(下肢の局所解剖) ②
28	B. 体表解剖と主要な部位(頭頸部の体表解剖と局所解剖)
29	第12章のまとめ、問題演習など
30	試験フィードバック、後期のまとめ

その他の事項

<課題について>

範囲ごとに課題を実施し、その得点を20%換算したものを平常点といたします。

<担当者メールアドレス>

usui@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	奥村 清和		
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。所定の教科書を利用して、その章の基準に従って授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらって、それに対して、説明・解釈を加えていきます。また、必要に応じて、自作のスライドを見てもらいながらの説明もあります。</p>		
教科書	解剖生理 医歯薬出版		

具体的な到達目標	
目標1	人体各部の機能を習得する。
目標2	習得した系統をつなぎ合わせて、理解を深める。
目標3	他の科目や臨床に応用できるようにする。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績					
平常点	なし	算出方法	なし	算出方法	
出席点	なし	算出方法	なし	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		細胞の概要、遺伝子とゲノム	
2		細胞分裂、遺伝子発現	
3		体液と恒常性、体液の性質	
4		物質の移動	
5		第6章 血液と免疫（血液）、血液とその成分	
6		白血球、血小板と止血機構	
7		血液凝固、血液型	
8		第5章 循環系、心臓	
9		心臓の活動と検査	
10		血圧と脈拍	
11		血圧と脈拍、リンパ系	
12		第7章 呼吸器系、呼吸と換気、呼吸とその調節	
13		呼吸機能の測定	
14		酸素・二酸化炭素の運搬	
15		呼吸の調節	
16		第8章 消化器系と代謝・栄養（消化器系）、嚥下、胃液と胃運動	
17		小腸の運動、小腸における消化と吸収	
18		大腸の運動と分泌、排便、膵臓の外分泌機能	
19		肝臓の機能、食欲	
20		第10章 内分泌系と体温（体温）、概要	
21		体熱の産生と放散①	
22		体熱の産生と放散②	
23		温度受容器と体温調節中枢、体温調節機能	
24		第9章 泌尿器系、腎臓の機能	
25		尿の生成、糸球体におけるろ過	
26		尿細管における再吸収と分泌	
27		腎機能の測定	
28		尿の組成、体液pHの調整	
29		蓄尿、排尿反射	
30		予備	
その他の事項			

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	金井 優也	学 期	通 年
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系」を重点的に学ぶ。 本授業では、国家試験に対応できる力を育成することにのみならず、他科目と確実に連携できることを目的として実施し、頭の中で人体の各臓器の構造が3次元で構成できることを最終的な目標とする。		
教科書	東洋療法学校協会 解剖生理 第1版		

具体的な到達目標	
目標1	細胞、組織の構造について理解し説明することができる。
目標2	心臓の構造を理解し説明することができる。
目標3	全身の血管系の流れを理解し説明することができる。
目標4	血管の構造を理解し説明することができる。
目標5	リンパ系の役割・各種リンパ系器官の構造を理解し説明することができる。
目標6	呼吸器の流れ、各呼吸器系器官の構造を理解し説明することができる。
目標7	各消化器官の構造や流れについて理解し説明することができる。
目標8	各泌尿器官の構造や流れについて理解し説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	— 算出方法 —	算出方法 —	
出席点	— 算出方法 —	算出方法 —	
その他	— 算出方法 —	算出方法 —	
試験日	—		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅠ。ガイダンス。	
2		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅡ。 第5章循環系：循環の概要と血管の構造について学ぶ。	
3		第5章循環系：血管の構造と吻合、門脈の概要について学ぶ。	
4		第5章循環系：心臓の構造(位置・心膜・壁)について学ぶⅠ。	
5		第5章循環系：心臓の構造(房室・弁・刺激伝導系)について学ぶⅡ。	
6		第5章循環系：心臓の構造(心臓血管)について学ぶⅢ。	
7		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(大動脈・胸大動脈)について学ぶⅠ。	
8		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(腹大動脈)について学ぶⅡ。	
9		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(総腸骨動脈)について学ぶⅢ。	
10		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(上肢・頸部・顔面部)について学ぶⅣ。	
11		第5章循環系：静脈と胎児循環について学ぶ。	
12		第5章循環系：リンパ系(総論)について学ぶ。	
13		第5章循環系：リンパ系(リンパ節・脾臓)について学ぶ。	
14		第5章循環系：リンパ系(胸腺・扁桃)について学ぶ。	
15		第5章の総復習。	
16		第7章呼吸器系：鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について学ぶ。	
17		第7章呼吸器系：気管系・肺について学ぶ。	
18		第8章消化器系と代謝・栄養：消化管の壁構成について学ぶ。	
19		第8章消化器系と代謝・栄養：口蓋・軟口蓋・舌について学ぶ。	
20		第8章消化器系と代謝・栄養：歯・唾液腺・咽頭について学ぶ。	
21		第8章消化器系と代謝・栄養：食道・胃について学ぶ。	
22		第8章消化器系と代謝・栄養：小腸について学ぶ。	
23		第8章消化器系と代謝・栄養：大腸について学ぶ。	
24		第8章消化器系と代謝・栄養：肝臓・胆嚢について学ぶ。	
25		第8章消化器系と代謝・栄養：膵臓の・腹膜について学ぶ。	
26		第8章消化器系と代謝・栄養：消化器の位置・構造等を総括的に学ぶ。	
27		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅠ。	
28		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅡ。尿路(尿管)について学ぶⅠ。	
29		第9章泌尿器系：尿路(膀胱・尿道)について学ぶⅡ。	
30		第7章・8章・9章の総復習。	

その他の事項

解剖学は形態・構造の理解を目指す学問です。人体の構造に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものと考えます。何度も反復学習することが重要になります。何か不明な点がございましたら、分からないままにせず、気軽に質問していただけたらと思います。

担当教員メールアドレス : y-kanai@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	60
担当教員	佐藤陽子		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>「生理学」は人体の構造や機序を知る上で、医学の基礎的分野を担います。人体の構造や機能、機序をきちんと理解しなければ、生体機能の異常である「疾患」を理解できません。人に触れ、直接的に施術を行うはり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師にとって、人体の構造と機能を正しく理解することは、施術の安全性や病態鑑別の点からも重要なことです。また、「生理学」で学ぶ知識は、その後に学ぶことになる様々な科目の理解に繋がるものであり、医療分野の教育の基盤となります。本授業では、人体の生命維持に必要な基本的な仕組みである、代謝・内分泌・生殖・神経の機能について学習することで、臨床の現場において遭遇する疾患の機序を考察でき、他の科目や臨床への応用ができるものと考えます。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、解剖生理第1版、医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	ATP を合成する過程について説明することができる。
目標 2	三大栄養素・ビタミン・ミネラルの役割について説明することができる。
目標 3	ホルモンとその主な作用について説明することができる。
目標 4	ホルモンの分泌器官・標的組織・分泌調整の流れを説明することができる。
目標 5	生殖に関わるホルモンについて説明することができる。
目標 6	生体のリズムと加齢変化について説明することができる。
目標 7	活動電位の発生メカニズム、静止電位の成因を説明できる。
目標 8	神経の興奮伝導、シナプス伝達の生理学的特性について説明することができる。
目標 9	中枢神経系の機能を部位ごとに説明することができる。
目標 10	末梢神経系(脳神経・自律神経)の各機能を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第8章B. 代謝と栄養 1. 代謝とは	P. 226
2		第8章B. 代謝と栄養 2. 糖質	P. 226. 227
3		第8章B. 代謝と栄養 3. 脂質, タンパク質	P. 228. 229
4		第8章B. 代謝と栄養 5. ビタミン, ミネラル	P. 230. 231
5		第8章B. 代謝と栄養「まとめ」	
6		第10章A. 内分泌系の総論	P. 244~247
7		第10章B. 内分泌系の各論 1. 視床下部と下垂体	P. 247~249
8		第10章B. 内分泌系の各論 2. 甲状腺と副甲状腺, ラングルハンス島 膵島	P. 250~253
9		第10章B. 内分泌系の各論 4. 副腎皮質	P. 253~255

10	第 10 章 B. 内分泌系の各論 4. 副腎髄質, その他のホルモン	P. 255. 256
11	第 10 章 B. 内分泌系の各論 6. ホルモンによる体液の調整,	P. 256
12	第 10 章「まとめ」	
13	第 11 章 A. 生殖とは	P. 262~269
14	第 11 章 B. 妊娠と発生	P. 269~273
15	第 11 章 C. 生体のリズムと加齢変化	P. 273~276
16	第 11 章「まとめ」	
17	第 3 章 A. 神経系と神経組織 1. 神経系の分類, 神経組織	P. 82~84
18	第 3 章 A. 神経系と神経組織 3. 神経細胞の興奮と伝導, シナプス伝達	P. 84~87
19	第 3 章 B. 中枢神経系 1. 中枢神経系の構造, 中枢神経系の統合機能	P. 87~89
20	第 3 章 B. 中枢神経系 3. 大脳 (大脳の構造, (新皮質	P. 89~91
21	第 3 章 B. 中枢神経系 3. 大脳 (新皮質, (大脳辺縁系, (大脳基底核	P. 91. 92
22	第 3 章 B. 中枢神経系 4. 間脳, 5. 脳幹	P. 93. 94
23	第 3 章 B. 中枢神経系 6. 小脳	P. 95
24	第 3 章 B. 中枢神経系 7. 脳波と睡眠	P. 96
25	第 3 章 A, B 「まとめ」	
26	第 3 章 C. 伝導路と運動調節 4. 運動反射	P. 104~106
27	第 3 章 D. 末梢神経系 1. 脳神経	P. 106~112
28	第 3 章 D. 末梢神経系 1. 脳神経	P. 106~112
29	第 3 章 D. 末梢神経系 3. 自律神経系	P. 121~124
30	第 3 章 D. 末梢神経系 3. 自律神経系, 第 3 章 C. D 「まとめ」	P. 121~124

その他の事項

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	80	実施時間数	80
担当教員	高橋 佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	経絡経穴概論は、あはき学を学ぶ上で重要な柱の1つである。経穴は、身体各部の状態が体表上に反映される部位であり、同時に、刺激をすることで身体各部に影響を与えることができる、診断・施術において重要なポイントである。本講義では経絡の種類、作用、流れ、経穴の名称、部位、意義を学び、臨床において経穴を応用できる基礎知識を身につける。				
教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(医道の日本社)				

具体的な到達目標	
目標1	督脈・任脈の流注、部位を覚える。
目標2	手の太陰肺経～足の厥陰肝経までの経絡の流注、部位を覚える。
目標3	取穴する上で必要な骨度法を覚える。
目標4	五行穴、五要穴を覚える。
目標5	奇経八脈・奇穴を覚える。
目標6	経絡経穴の現代的研究を覚える。
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法 小テスト①～⑧	20%	算出方法 小テスト⑨～⑮	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、経絡経穴の概要①	
2		経絡経穴の概要②、骨度法	
3		督脈の流注・経穴名・部位について①	小テスト①
4		督脈の流注・経穴名・部位について②	
5		任脈の流注・経穴名・部位について①	小テスト②
6		任脈の流注・経穴名・部位について②	
7		手の太陰肺経の流注・経穴名・部位について	小テスト③
8		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト④
9		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について②	

10	足の陽明胃經の流注・經穴名・部位について①	小テスト⑤
11	足の陽明胃經の流注・經穴名・部位について②	
12	足の陽明胃經の流注・經穴名・部位について③	
13	足の太陰脾經の流注・經穴名・部位について①	小テスト⑥
14	足の太陰脾經の流注・經穴名・部位について②	
15	手の少陰心經の流注・經穴名・部位について	小テスト⑦
16	手の太陽小腸經の流注・經穴名・部位について①	小テスト⑧
17	手の太陽小腸經の流注・經穴名・部位について②	
18	督脈～手の太陽小腸經の復習	小テスト⑨
19	足の太陽膀胱經の流注・經穴名・部位について①	
20	足の太陽膀胱經の流注・經穴名・部位について②	
21	足の太陽膀胱經の流注・經穴名・部位について③	
22	足の少陰腎經の流注・經穴名・部位について①	小テスト⑩
23	足の少陰腎經の流注・經穴名・部位について②	
24	手の厥陰心包經の流注・經穴名・部位について	小テスト⑪
25	手の少陽三焦經の流注・經穴名・部位について①	小テスト⑫
26	手の少陽三焦經の流注・經穴名・部位について②	
27	足の少陽胆經の流注・經穴名・部位について①	小テスト⑬
28	足の少陽胆經の流注・經穴名・部位について②	
29	足の少陽胆經の流注・經穴名・部位について③	
30	足の厥陰肝經の流注・經穴名・部位について	小テスト⑭
31	足の太陽膀胱經～足の厥陰肝經の復習	小テスト⑮
32	五行穴・五要穴について	
33	その他の要穴について	
34	胸腹部、腰背部の横並びについて	
35	奇經八脈について、奇穴について①	
36	奇穴について②	
37	四肢の筋と經穴の関係	
38	体幹の筋と經穴の関係	
39	総復習	
40	經絡經穴の現代的な研究について、参考資料について	

その他の事項

小テストは適宜、授業内で実施する。

担当教員(メールアドレス)
takahashi@butsugen.or.jp

授業概要

学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	80	実施時間数	80
担当教員	上田 恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学の基礎理論について学習する。東洋医学的な生理、病理、診察、治療論について学習し、臨床に向け応用できる東洋医学的な人体の診方を涵養する。				
教科書	教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論				

具体的な到達目標

目標 1	東洋医学の基礎理論について説明ができる。
目標 2	陰陽学説、五行学説、五行の性質を説明できる。色体表を書くことができる。
目標 3	生体物質について理解し説明できる。
目標 4	臓腑の特性、生理、病理について説明できる。
目標 5	奇経八脈の作用、役割、病態について説明できる。
目標 6	四診を用いて判断する。舌診、脈診の意味を理解し説明できる。
目標 7	問診と病態を関連させることができる。
目標 8	気血津液について原因、症状を説明できる。
目標 9	十二経絡病証、是動病、所生病から経脈の異常を判断できる。
目標 10	臓腑病証の区分を理解し説明できる。

評価と試験

前 期		後 期	
試験成績	80 点	80 点	
平常点	0 点 算出方法	0 点 算出方法	
出席点	0 点 算出方法	0 点 算出方法	
その他	20 点 算出方法 小テスト	20 点 算出方法 小テスト	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験		
実務経験をいかした教育内容		

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、授業ガイダンス	
2		東洋医学の仕組み、沿革	
3		陰陽学説	
4		五行学説	
5		五行の性質、色体表	
6		五行の性質、色体表	
7		気血津液について①	
8		気血津液について②	
9		蔵象① (肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃)	
10		蔵象② (肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃)	小テスト 1
11		蔵象③ (肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑)	
12		蔵象④ (肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑)	
13		奇恒の腑	
14		病因病機①	

15	病因病機②	
16	病因病機③	小テスト2
17	弁証方法の種類、八綱弁証	
18	気血津液の病理①	
19	気血津液の病理②	
20	前期まとめ	
	前期試験	
21	試験解説	
22	臓腑病証（肝・胆・心・小腸）	
23	臓腑病証（肝・胆・心・小腸）	
24	臓腑病証（脾・胃・肺・大腸）	
25	臓腑病証（脾・胃・肺・大腸）	
26	臓腑病証（腎・膀胱）	
27	臓腑病証（腎・膀胱）	
28	奇経八脈の流れ	
29	奇経八脈の病証	
30	十二経絡病証①、（是動病、所生病）	小テスト3
31	十二経絡病証②	
32	経脈・絡脈・皮部・経筋	
33	脈診ガイドンス 望診・聞診：舌診、五行を用いた診断法、臨床上の扱い、舌診（形態、病態）	
34	問診：臨床に即した問診方法①	
35	問診：臨床に即した問診方法②	小テスト4
36	問診：臨床に即した問診方法③	
37	切診：脈状診、六部定位脈診、三部九候診、人迎脈口診	
38	切診：『難経』の腹診、『傷寒論』の腹診、募穴診、夢分流腹診	
39	後期まとめ総復習	
	後期期末試験	
40	試験解説	

その他の事項

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

スマートフォンや携帯電話について：講義中の使用・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。紛失した場合追加での印刷は行わない。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合がある。

成績評価 前期：試験点数80点満点 小テスト20点

後期：試験点数80点満点 小テスト20点

担当教員からメッセージ

「初めての東洋医学は、わからない言葉が多く勉強することがたくさんあります。全ては患者さんを治すためにある学問です。自分が治療家になるイメージを持ちながら授業を受講してもらえると学習効果も上がると思います。わからないことは放っておかず積極的に質問してください。」

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20	実施時間数	20
担当教員	岩本 奈己				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸施術において、利用する鍼と灸に関する道具の名称や術式など、基礎的な知識を理解することは、施術を円滑に進めるためには必要な知識である。そのため、本授業では鍼灸の基礎知識を学習する。 また、はり師きゅう師が患者の受療の可否の判断をすること、鍼灸施術を行うにあたって意図的に鍼灸刺激の調節ができる必要がある。本授業では、安全に施術を行えるように、鍼灸治療の適応や禁忌などのリスク管理について学習する。				
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう理論、医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標1	鍼の基礎知識として（各部の名称・長さ・太さ・鍼尖の形状）を説明することができる。
目標2	古代九鍼の種類と使用方法について説明することができる。
目標3	刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕と刺鍼の術式〔押手・刺手・切皮など〕を説明することができる。
目標4	刺鍼中の手技について説明することができる。
目標5	特殊鍼法の種類と特徴について説明することができる。
目標6	灸の基礎知識（灸の材料・線香について）を説明することができる。
目標7	灸術の種類とその特徴を説明することができる。
目標8	鍼灸施術の刺激量や感受性について説明することができる。
目標9	鍼灸施術の適応症、禁忌について説明することができる。
目標10	リスク管理（施術上の一般的注意、鍼灸療法の過誤と副作用、感染症対策）について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸施術を安全に行うために必要な基礎知識を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明 第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識	P. 1~P. 2 P. 3~P. 8
2		第2章 鍼の基礎知識 第3章 刺鍼の方式と術式	P. 3~P. 8 P. 9~P. 14
3		第3章 刺鍼の方式と術式	P. 9~P. 14
4		第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類	P. 21~P. 24 P. 25~P. 28

5		第6章 灸術の種類	P. 25～P. 28
6		第4章 特殊鍼法	P. 15～P. 20
7		第4章 特殊鍼法	P. 15～P. 20
		第7章 リスク管理「安全対策の基本」	P. 29～P. 33
8		第7章 リスク管理「感染対策」	P. 34～P. 38
9		第7章 リスク管理「有害事象の種類と対処法」	P. 39～P. 45
10		第7章 リスク管理「有害事象の種類と対処法」 復習	P. 39～P. 45

その他の事項

担当教員アドレス : n.iwamoto@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20	実施時間数	20
担当教員	田中 童菜				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「あん摩」「マッサージ」「指圧」の基本手技やその相違点について学ぶことにより、各種実技を行なう上で、より具体的なイメージを持てるようになることを目的とする。 また、併せて「あん摩」「マッサージ」「指圧」の治療理論を知ることにより、より効果的な施術を行なえるようになることを目的とする。				
教科書	あん摩マッサージ指圧理論 第3版 医道の日本社 (※ P1~P40)				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩・マッサージ・指圧の違いを説明することができる。
目標2	あん摩の基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標3	マッサージの基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標4	指圧の基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標5	あん摩・マッサージ・指圧が生体に及ぼす作用について説明することができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		—		
平常点	—	算出方法	—	算出方法	—
出席点	—	算出方法	—	算出方法	—
その他	—	算出方法	—	算出方法	—
試験日					

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で2年、あはき整骨院で2年間、出張開業で2年の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	「あん摩」「マッサージ」「指圧」の各種基本手技について教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		科目概要の説明、あん摩マッサージ指圧の相違点	
2		あん摩・マッサージ・指圧の意義と沿革	
3		あん摩の基本手技とその作用	
4		マッサージの基本手技とその作用	
5		指圧の基本手技とその作用	
6		生体作用の機転の一般、循環器系・神経系に及ぼす作用	
7		皮膚・筋・関節・消化器・呼吸器・全身に及ぼす作用	

8	運動法の生体に及ぼす作用
9	施術に応用できる体操法
10	あん摩マッサージ指圧の治療効果

その他の事項

教科書 P41 以降は「あま指理論Ⅱ」3年生で行なう内容となります。

メールアドレス : tanaka-w@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	90
担当教員	棟居清峰・下宮啓佑・田中童菜				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	本授業は、基本的な刺鍼の手順、安全な鍼操作を理解、習得することが目的である。また、鍼灸臨床におけるステンレス鍼と銀鍼の使用方法を学び習得することで基礎を構築する				
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年				

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること
目標3	安全に刺鍼することができるように一連の手順を正確にできること
目標4	刺鍼に関わる動作（揉捻法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行えること
目標5	指定された角度・深度に刺鍼することができること

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	55%（試験合格を以って55%を加算する）	55%（試験合格を以って55%を加算する）	
平常点	35% 算出方法 「その他の事項」に記載	35% 算出方法 「その他の事項」に記載	
出席点	10% 算出方法 「その他の事項」に記載	10% 算出方法 「その他の事項」に記載	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で13年間の実務経験あり。 〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて4年間の経験あり。他校附属治療院にて6年間の実務経験あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。 〔田中〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で2年、あはき整骨院で2年間、出張開業で2年の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に刺鍼するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・実技室の使い方・道具の確認・道具の準備・手洗いについて]	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼]	
4	反復練習 (刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼])	
5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について	
6	反復練習 (直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について)	
7	直刺での刺鍼、旋捻刺法	
8	反復練習 (直刺での刺鍼、旋捻刺法)	
9	直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋捻刺法	
10	反復練習 (直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋捻刺法)	

- 11 人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技〔副刺激術、置鍼術、示指打法、刺鍼転向法〕
- 12 自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕
- 13 自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕、消毒手順確認
- 14 自身の体への刺鍼〔下腿〕、斜刺での刺鍼
- 15 自身の体への刺鍼〔下腿〕、直刺・斜刺での刺鍼
- 16 片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認
- 17 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔直刺・斜刺〕
- 18 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、十七手技〔単刺・雀啄術〕
- 19 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔直刺〕
- 20 試験
- 21 試験
- 22 他者の体への刺鍼〔下腿〕、タオルの取り扱い方
- 23 他者の体への刺鍼〔下腿〕、十七手技〔間歇術〕、消毒手順確認
- 24 他者の体への刺鍼〔腰部〕、十七手技〔屋漏術〕
- 25 他者の体への刺鍼〔腰部〕、試験十七手技〔振せん術〕
- 26 他者の体への刺鍼〔上・中背部〕、十七手技〔旋撚術〕、鍼寸3の取り扱いについて
- 27 他者の体への刺鍼〔上・中背部〕、十七手技〔回旋術〕
- 28 他者の体への刺鍼〔上肢〕、十七手技〔随鍼術〕
- 29 他者の体への刺鍼〔上肢〕、十七手技〔内調術〕
- 30 他者の体への刺鍼〔腹部〕、十七手技〔細指術〕
- 31 他者の体への刺鍼〔頸部〕、十七手技〔鍼尖転移法〕
- 32 他者の体への刺鍼〔頸部〕、十七手技〔管散術〕
- 33 他者の体への刺鍼〔背部〕
- 34 他者の体への刺鍼〔腰背部〕
- 35 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 36 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 37 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 38 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 39 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 40 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 41 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 42 試験
- 43 試験
- 44 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 45 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕

その他の事項

【共通】

- <試験成績> 55% (試験合格を以って55%を加算する)
- <出席点> 10% (3/4以上の出席を以て10%を加算する)
- <平常点> 35%

【平常点内訳】

- [授業内実技確認 20%] 授業内に実技内容を確認・評価し20%に換算する。(授業内実技確認日は別途アナウンスします。)
- [その他 15%] 以下の内容、1回チェックにつき1点減点とする。
 - 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
 - 実技に必要な道具・備品 (バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあって以降) を忘れた場合。
 - 身だしなみ：別紙(実技実習に関する身だしなみルール)に準ずる。
 - 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。 積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから 毎日、練習の習慣を付け、先ずは1年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入できること。

【1年生の目標】

- 1年生では誤差±5mm以内で刺入できること。
- ※但し、目的の深度が1cmの場合は下限を7mmとする。
- (直刺) 90°を目標として刺鍼する。

1年生は誤差 $\pm 15^\circ$ 以内で刺入できること
(斜刺)基本 45° を目標として刺鍼する。
1年生は 45° に対して誤差 $\pm 15^\circ$ 以内で刺入できること。
斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	90
担当教員	棟居清峰・高橋佑輔・岩本奈己		
授業形態	実 習	教 室	第1実技室
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年		

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる。
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること。
目標3	安全に施灸することができるよう施灸の手順が正確にできること。
目標4	散艾から指定された大きさの艾炷を作成することができること。
目標5	作成した艾炷に安全に着火することができ、線香を安全に扱えること。

評価と試験			
	前 期		後 期
試験成績	55%（試験合格を以って55%を加算する）		55%
平常点	35% 算出方法 「その他」に記載		35% 算出方法 「その他」に記載
出席点	10% 算出方法 「その他」に記載		10% 算出方法 「その他」に記載
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で13年間の実務経験あり。 〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・実技室の使い方・モグサの確認・道具の確認・身だしなみ]	
2	お灸の概要、施灸の練習方法、艾炷を捻る指の動きの練習	
3	反復練習	
4	米粒大艾炷の作成 [手拭い]	
5	米粒大艾炷の作成 [板]	
6	線香の扱い方、艾炷への着火、米粒大艾炷の作成 [板]	
7	反復練習	
8	灸療リングの使い方、米粒大艾炷の作成 [紙]	
9	反復練習	
10	米粒大艾炷の作成 [竹]	
11	[板・紙・竹]を用いて施灸の反復練習	

- 12 人体への施灸手順、知熱灸の方法 [板の上での練習]
- 13 自身の体への施灸 [失眠]
- 14 自身の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 15 自身の体への施灸 [下腿]
- 16 他者の体への施灸 [失眠]、ベッド操作、タオルの扱い、声掛け
- 17 他者の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 18 他者の体への施灸 [下腿]
- 19 艾炷を捻る指の動き、艾炷の大きさ、着火など施灸動作一連の流れの確認
- 20 試験
- 21 試験
- 22 半米粒大の艾炷作成 [板・紙]
- 23 透熱灸の方法 [板の上での練習]、自身の体への施灸 [失眠]
- 24 自身の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 25 他者の体への施灸 [失眠]
- 26 他者の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 27 仰臥位と伏臥位の施灸、米粒大・半米粒大、知熱灸・透熱灸の使い分け
- 28 他者の体への施灸 [腰部]
- 29 他者の体への施灸 [背部]
- 30 他者の体への施灸 [上肢]
- 31 他者の体への施灸 [腹部]
- 32 他者の体への施灸 [下肢]
- 33 他者の体への施灸 [腰背部]
- 34 他者の体への施灸 [腹部]
- 35 他者の体への施灸 [上肢・下肢]
- 36 他者の体への施灸 [肩背部]
- 37 他者の体への施灸 [仰臥位・伏臥位]
- 38 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 39 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 40 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 41 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 42 試験
- 43 試験
- 44 台座灸
- 45 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

【共通】

- <試験成績> 55% (試験合格を以って 55%を加算する)
- <出席点> 10% (授業コマ数の 3/4 以上を以て 10%に加算する)
- <平常点> 35%

【平常点内訳】

- [提出物 15%] 全提出の 3/4 以上提出を持って 15%に加算する。提出期限厳守。
- [授業内実技確認 5%] 授業内に実技内容を確認・評価し 5%に換算する。(授業内実技確認日は別途アナウンスします。)
- [その他 15%] 以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。
 - 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
 - 実技に必要な道具・備品 (バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあって以降) を忘れた場合。
 - 身だしなみ：別紙 (実技実習に関する身だしなみルール) に準ずる。
 - 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・灸の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは 1 年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

人体に対し 3 分間で 12 壮、半米粒大の透熱灸 (熱緩和を行う) ができること。

【1 年生の目標】

1 年生では 3 分間に米粒大 8 壮、半米粒大 10 壮

(例) 失眠穴へ 3 分間 (半米粒大) と透熱灸、熱緩和あり、左右交互 10 壮施灸できること。

1 年生は、紙への施灸は (200 壮/週) 10, 000 壮 (通年)

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	60	実施時間数	64
担当教員	松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	<p>「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、数あるあん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせやその応用から成り立っており、基本手技の重要性については疑う余地もない。また、それら基本手技を修得するための確実な方法は反復練習であると考えられる。</p> <p>そのため、本授業では肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頸部・腰殿部・下肢部）への基本・基礎的なあん摩施術を反復して実践し、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。</p>				
教科書	教科書は指定しない 手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチ、シーツ（タオル）は毎回必ず持参すること				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩施術の一連の流れを実施することができる。
目標2	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標3	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標4	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標5	患者役の呼吸・感受性に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標6	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標7	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%	70%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	30% 算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点	30% 算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で10年以上の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手といったあん摩施術における基本的な手技を中心に実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2	あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4	前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5	坐位における頸部へのあん摩施術の練習	
6	前回内容（坐位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7	坐位における上肢部へのあん摩施術の練習	
8	前回内容（坐位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
9	側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
10	前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	

11	側臥位における頸部へのあん摩施術の練習
12	前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習
13	側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習
14	前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習
15	前期実技試験、前期学習内容の復習
16	前期実技試験、前期学習内容の復習
17	側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習
18	前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習
19	側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習
20	前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習
21	腹臥位における頸肩部へのあん摩施術の練習
22	腹臥位における背腰部へのあん摩施術の練習
23	仰臥位における下肢部へのあん摩施術の練習
24	坐位における頭部へのあん摩施術の練習
25	坐位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習
26	側臥位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習
27	側臥位における腰殿部・下肢部へのあん摩施術の練習
28	側臥位におけるあん摩施術の通し練習
29	腹臥位におけるあん摩の通し練習
30	後期実技試験、これまでの学習内容の復習
31	後期実技試験、これまでの学習内容の復習
32	全身のあん摩施術の総復習

その他の事項

通年であん摩の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	60	実施時間数	64
担当教員	松葉 実				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	マッサージ実技。マッサージの基本の施術を見せて、学生自身で練習を反復し、手技の習得をはかる。				
教科書	東洋療法学校協会編、あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉、医道の日本社、1991年				

具体的な到達目標	
目標1	マッサージ師としての基本的な技術と知識の習得。
目標2	施術を施して楽になることが理解できる。
目標3	解剖学的な筋肉や骨の理解。
目標4	東洋医学の一環としての手技であることの自覚。
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
	前 期		後 期
試験成績	60		
平常点	10	算出方法	算出方法
出席点	30	算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	7月中旬および12月上旬の予定		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	38年
実務経験をいかした教育内容	一年生ではマッサージの基本手技を身体各部全身に教科書を見ずに施術できるよう習得する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		三療の中のマッサージの位置付け	
2		基本手技	
3		運動法と矯正法	
4		手部	
5		前腕	
6		上腕	
7		足部	
8		下腿部	
9		大腿部	

10		復習
11		予備日
12		試験日
13		試験日
14		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋
15		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋
16		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋
17		頸部
18		頭部
19		胸部
20		腹部 1
21		腹部 2
22		顔面部
23		関節 1
24		関節 2
25		乳房
26		後期の復習
27		予備日
28		試験日
29		試験日
30		予備日
31		
32		

その他の事項

その日習った手技を必ず復習し、わからない箇所をまとめて次の授業にて質問するように。

授業概要			
学 科	本 科	学 年	1 年
単 位 数	2	必要時間数	60
担当教員	上田 恵介	学 期	通 年
授業形態	実 習	実 施 時 間 数	60
授業目的	関西伝統指圧について学ぶ。本校オリジナルの指圧テキストを教材として用いる。解説はデモンストレーションを主とし、必要に応じて教材以外の資料を配付、板書等交えながら実施する。特に安全面に注意しながら、効率的な身体の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険性を伴う。したがって安全に操作が行えるようになることを第一とする。その上でより治療的に行えるようになるための基礎（基本）を反復練習する習慣を身に付ける。		
教科書	京都仏眼鍼灸理療専門学校 指圧整体法テキスト		

具体的な到達目標	
目標1	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標2	安全に操作する方法を説明できる。
目標3	基本操作を手順通り行える。
目標4	基本操作を安全に行える。
評価と試験	
前 期	後 期
試験成績	100%
平常点	算出方法
出席点	算出方法
その他	算出方法
試験日	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、他治療院2年間、往診専門で開業6年、本校附属治療所で8年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	導入 オリエンテーション、授業概要の説明 指圧に関する基礎知識1 あま指の相違点、指圧法の成り立ち、押圧操作の三原則、方向・角度・深度など	ホームルーム教室
2	導入 指圧に関する基礎知識2 押圧の分析（基本図形）、手掌の名称、背部の名称など	
3	伏臥位（前半） 姿勢（術者・受者の姿勢、立ち位置）、脊柱検査、肩の安全確認	
4	'' 背部全体の掌圧（遠位側・近位側・脊柱）、体傾荷重について	
5	'' 一側線の両母指圧	
6	'' 二側線の両母指圧	
7	'' 三側線の両母指圧	
8	'' 肩甲骨周囲部の両母指間圧迫（内側縁）	
9	'' 腰側線の両母指圧	
10	'' 仙骨両側の両母指圧（挟み込み）	
11	'' 下肢の掌圧及び母指圧操作固定に関して、固定の意義 （正中ライン：大腿の掌圧、膝の操作、委中・アキレスの1点圧、足裏の操作）	
12	'' （内側ライン：内股の掌圧、アキレスの手根圧）	
13	'' （外側ライン：大腿～下腿外側の掌圧）	
14	前期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習	
15	前期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習	

16	試験後の総評	前期伏臥位総復習
17	伏臥位（後半）	肩上部、肩背部母指圧（T6,7～肩甲骨上角、肩上部、棘上部、1側線上部）
18	〃	上肢操作（腋窩押圧、上腕・前腕の掌圧）
19	〃	肩甲骨内側縁の母指圧
20	〃	一・二・三側線の両母指圧（治療的）、腰側線の両母指圧
21	〃	仙骨孔の4点母指圧（後仙骨孔の指標）
22	〃	下肢操作（大腿～下腿の掌圧、腓骨の巻き込み）
23	〃	下肢操作（足関節の回転運動、膝関節回転法）
24	〃	下肢操作（前脛骨筋の手根圧、下肢操作復習）
25	〃	大腿前面部伸展法、腰部伸展法
26	〃	後半総復習
27	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
28	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
29	試験後の総評	後期伏臥位総復習
30	指圧総合	伏臥位通し

第2実技室

その他の事項

<試験評価> 100%（クラスメイトまたは教員に対する施術を評価する）

○実着着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

<教員メッセージ>

「指圧実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術です。

自分の手1本で患者さんの身体を治療していく目標を掲げ、厳しくもやりがいのある指圧実技を限られた時間で学び取ってください！志し高く1年間一緒に頑張りましょう。」